

私は今まで十数社の会社経営や、複数の任意団体の運営にも関わってきました。

大学を卒業して以来、私はひとりの人間としてあるべき姿を求め、本を読んだり人の話を聞いたりし、考え、行動してきました。その中でも特に大きな影響を受けたものが二つあります。一つは松下幸之助氏の著作や名言で、もう一つが『神との対話』（ニール・ドナルド・ウォルシュ著）です。

『神との対話』には、聖職者を目指しながらも挫折し、波乱の人生を送っていた著者と、その著者が自動書記によつて受け取った神の言葉が対話形式でつづられています。宇宙、魂、人間がどのようにして創造されたのか、生と死とはなんなのか、死んだあと、人間はどうなるのか。これらについての対話は非常に魅力的で、何度も読み返しています。私にとって、バイブル的な一冊といえるでしょう。

そして、これらの本を繰り返し読むうちに、私はあることを確信するようになりました。

それは、「日本と日本人がこれからの世界の道標になる」ということです。

誤解していただきたいのですが、私はけっして日本と日本人を手放して賛美するつもりはありません。

ません。あとでもう少し詳しく述べますが、現状の日本と日本人には至らない点がたくさんあります。また、『神との対話』においても、すべての人間や民族は等しく価値を持つとされています。けっして選民思想に基づいてこのようなことを言っているわけではない、ということはご理解ください。

では、なぜ私が「日本がこれからの世界の道標になる」と確信したのかというと、これからの世界には、日本が伝えてきた調和の精神が必要だからと考えるからです。

現在、日本国内はもとより、世界中で価値観や民族、宗教などの違いからさまざまな軋轢や対立が起きています。これを解決するには、どうしたらいいのでしょうか。

答えは、自分と異なるものと調和する精神を持つことです。つまり、無理やり相手を自分に合わせた、我慢して自分を相手に合わせたりするのではなく、互いのありのままを認め、適切な距離を保ち、よい関係を築くことが必要なのです。このように他者と調和することができたなら、人、民族、社会、国家、そして世界全体がよりよい方向に変わっていくのも夢ではありません。

日本は温暖で四季の変化がある、自然に恵まれた土地です。しかし同時に、たとえば夏から秋にかけての台風や冬の大雪、火山噴火や地震、津波などの自然災害も多い土地です。私たちは過去何度も

大きな災害に遭い、そこから力を合わせて立ち上がることを繰り返してきました。そのような風土と歴史を通じ、日本人は他者と助け合い、自然やその背後にいる八百万の神々と調和して暮らす精神を育んできたのです。

日本人が調和を重んじていたことは、厩戸皇子（聖徳太子）が作ったとされる十七条憲法の第一条「和を以て貴しとなす」という文言からもうかがえます。ただし、勘違いしてはいけないのは、これは無条件に「仲良くしましょう」と言っているわけではないということです。この条文には続きがあり、全文を通して読むと「人にはそれぞれ意見の違いがある。しかし、その違いを乗り越えるためにちゃんと話し合い、協力し合えば問題は解決できる。だから、互いに協力し合うことを大切にしよう」という意味になるのです。

このように、日本人は本来、違うものの存在を認め、そのうえでお互い尊重し合って協力して生きていこうという思想を持っていました。

この精神を世界に伝え、また自らもこれを活かしつつ世界と一緒に歩み、その一員としてあるべき姿を示し続けていくこと。これこそが、これからの日本の役割です。声高に「このようにせよ」「私たちのやり方に従え」と言う必要はありません。黙々とただ日本らしい調和の精神を発揮し続けるだけ

で、他の国々の支えとなり、手本となり、リーダーシップを発揮することができるようになるのです。

しかし、これには一つ問題があります。それは、現在の日本人が、調和の精神とともに生きるという日本の本来の姿を知らない、もしくは忘れてしまっているということです。これこそが、先ほどお話しした「至らない点」にほかなりません。

少し前に、グローバルスタンダードという言葉が流行しました。この言葉のもと、西洋的なやり方や価値観こそがよいもので、日本的な価値観やありようは古く、変えていかなければいけない、と主張する人も多く登場しました。社会全体にもまた、日本的なものはガラパゴス化しているといっつからい、低く見るような風潮が生まれました。その結果、日本的なものはどんどん消えていき、日本について知らない日本人が増えてしまいました。

たしかに、経済活動においては大きな市場、つまり世界に合わせてやり方を変えなければいけないこともあるでしょう。しかし、グローバルスタンダードの背後にあるのは、西洋的な価値観です。この価値観では、今世界が直面している諸問題には対応できません。私たちが今立ち戻るべきは、日本的な精神や価値観です。ここをなんとかしないことには、日本が世界の道標になることは難しいでしょう。

そこで必要なのが、まず、日本人自身が日本を知ることです。

日本には日本の文化、風習、歴史があります。しかし、私たち日本人自身はこれらをどの程度知り、理解しているのでしょうか。ほとんど知らない、理解していない人もいるのではないのでしょうか。

行動を変えるには、まずなぜ行動を変えなければいけないかを頭（理性）で知り、感情で知り、そして少しずつ行動を変化させ、これを習慣にするということが必要です。たとえば、喫煙をやめようと思つたら、なぜ喫煙がよくないかを理性で理解し、喫煙によつて起こるデメリットに触れて感情的にも理解し、一日あたりの本数を少しずつ減らすことから始めていく、というようにするわけです。

ということは、日本が調和の精神を持つてリーダーシップを発揮できるようになるためには、日本らしさや調和の精神についてまず頭で知り、それから調和の精神を持つことの素晴らしさを感情で理解し、少しずつ行動を変え、その行動を習慣化していくことが必要ということになります。

この本は、その最初の段階「頭で知る」ことの助けになればと思つて書きました。とはいえ、日本らしさや調和の精神とひと言で言つても、その内容は多岐にわたります。とてもではありませんが、一冊の本で書ききれぬものではありません。

そこで本書では、特に目に見えない要素を大切にする視点に立ち、お話ししていくことにします。

「日本神話」「歴史」「京都」をキーワードにして日本のよさについてお話することにします。

なぜ目に見えない要素を大切にする視点に立つことにしたのか、それについては私の日々の仕事が関係しています。

毎日仕事をしていると、一見コストや利益などの目に見える経済的要素だけで回っているかのように見える社会にも、運や縁、めぐり合わせや心のありようなどの目に見えない要素もまたたくさん含まれているのだなあ、としみじみ思うことが少なくありません。

また、経営者は、自社の利益追求だけを考えていればいいというわけではありません。もちろん利益追求も重要ですが、それ以上に、社会貢献や、社員たちの能力や人間性の向上についても追求していかねばいけません。

特に現在は、政治、社会、金融、経済などあらゆるシステムが変化しつつある時代です。このような時代にあつては、社会貢献のやり方もより時代に合ったものに変えていく必要があるでしょう。

これらのことを合わせて考えた結果、私は、目に見えないものを大切にする視点に立ち、そこから見えるものを伝えようと思ったのです。

本書では、まず私が住む街「京都」についてお話しします。次に視点を広げ「日本」について、それからその原点である「日本神話」についてお話しします。そして最終的には、目に見えないものを大切にしていこうと考えた末にたどり着いた、より精神的なテーマ「スピリチュアル」についてもお話ししようと思います。これらのテーマはどれも、日本とその精神をより深く知り、多くの気つきを得るために押さえておきたい重要な言葉です。ぜひ、日本人の方にはもちろんのこと、諸外国の方にも読んでいただき、これからの時代の道標になる本当の日本のよさについて知っていただければと思います。

日本らしさというのは、古くてガラパゴス化しているものではありません。よりよい未来を作るために今必要とされているものなのだ、自信を持つていただければ嬉しく思います。